

# 大場郁子

## ピアノリサイタル

モーツァルト：幻想曲 ニ短調 K.397  
W.A.Mozart : Fantasie d-moll K.397

ハイドン：ピアノ・ソナタ 変ホ長調 Hob. XVI/52  
F.J.Haydn : Klaviersonate Es-dur Hob.XVI/52

ブラームス：幻想曲集 作品116  
J.Brahms : Fantasien op.116

ショパン：ピアノ・ソナタ ロ短調 作品58  
F.Chopin : Klaviersonate h-moll op.58

**Profile** 国立音楽大学を経て同大学大学院修了、クロイツァー賞受賞。●1980年クロイツァー賞受賞者演奏会に出演。●1979年からこれまでに19回のピアノリサイタルとピアノ協奏曲(尾高忠明氏指揮、東京フィルハーモニー交響楽団共演)によるリサイタルを開催。●1986年よりドイツへ6回短期留学。●安部和子、ティボール・ハツァイ、ギュンター・ルートヴィヒ、クラウス・シルデ、エーリッヒ・アンドレアスの各氏に師事。●現在、国立音楽大学講師。



IKUKO OHBA

PIANO RECITAL

2018 **11.22** 木

午後7時開演(6時30分開場)

**ヤマハホール**  
(ヤマハ銀座ビル7階 TEL03-3572-3139)

全自由席 ¥4,000

チケットぴあ 0570-02-9999 pia.jp/t(Pコード122-759)  
楽天チケット <http://ticket.rakuten.co.jp/>  
CNプレイガイド 0570-08-9990 [www.cnplayguide.com](http://www.cnplayguide.com)

後援：クロイツァー記念会

マネジメント・お問い合わせ・ご予約

Shin-en, 新演 03-3561-5012 [www.shin-en.jp](http://www.shin-en.jp)

◆2015年10月23日リサイタル評～「ムジカノーヴァ」2016年1月号より抜粋

…曲目は、前半にハイドン《変奏曲》へ短調とシューマン《フロレスケ》作品20、後半にブラームス《6つの小品》作品118、シューベルト＝リスト《ウィーンの夜会第6番》、リスト《メフィスト・ワルツ第1番》、グノー＝リスト《ファウスト・ワルツ》というもの。手堅く始まったハイドンは、丁寧な演奏でよく集中して弾かれていた。シューマンとブラームスも、ハイドン同様、正攻法で素直なアプローチであり、作品に対する真摯な共感を紡いでいて、好感度の高い演奏だった。編曲も含むリスト作品群は、いずれも演奏者本人が楽しんでいる感じが伝わってくる、パワフルな快演だった。…(中略)…難曲ぞろいながら、本人の弾き切った感がうかがわれた。複雑な情感が豊かに、時に華やかに奏でられ、心に残った一夜。

◆2013年10月27日リサイタル評～「ムジカノーヴァ」2014年1月号より抜粋

…美しいまろやかな音によって、作品の隅々まで映し出すようなピアノであった。モーツァルトでは場面の变化を大きく捉え、シューベルトにおいては淡々とした音楽の流れの中で、作曲家の声に忠実であろうとする姿勢が随所に感じられる。休憩後のヴィラ＝ロボスの、虚飾を排したシンプルな響きの中に浮かび上がる憂いな表情は、実に魅力的であった。シューマンでは、内声部を大胆に歌わせて音楽に彩りを添えるとともに、聴く者のイマジネーションをも揺さ立てる。…(中略)…大場の心の動きが直結するような演奏で、彼女の音楽性には親近感が持てる。